

葉いもち病の初發部位について

小野 小三郎

稻葉の表皮の構造を見ると、大別して維管束列、氣孔列及び機動細胞列との3つからなつている。いもち病菌の侵入は機動細胞に多く行われると云われているが、侵入のすぐあとの段階としての初發はどの部位に多いのであろうか。37品種の稻を用い、病斑のバルサム封緘標本によつて調査した結果は表の如くである。

初發は維管束部に行われることは殆んどなく、氣孔列又は機動細胞列の何れかに行われる。機動細胞に初發する率は表に見る様に10%から90%までひろがり、平均では42.9%となつている。即ち品種により非常に差があるものであり、しかも機動細胞に初發するものゝ案外に少ないのに驚かざるを得ない。

機動細胞列より始まる病斑の率

0% ~ 10%	10 ~ 20	20 ~ 30	30 ~ 40	40 ~ 50	50 ~ 60	60 ~ 70	70 ~ 80	80 ~ 90	90 ~ 100
	岩手亀ノ 尾1号 テ、テ ア エビス	農 1 6 モーコ稻 大畑 畿早76号 愛国70号 尾花 2号 ヌレバ	黄金糯 尾ノ 1号 富山2号 北陸14号 銀粘 初光 陸羽 132号	福銀井 坊主 愛国 関東41号 農 8 農 15 長柄早生 新3号 早生 銀坊主 農 1 走坊主 黒禾 銀坊主 中 生	遠野3号	観音和 改良愛国	カマイラ ズ 東北15号	千本旭 チャルナ ック 農 3 糯 林 3号	

菌の侵入が機動細胞列に多く、初發部位はかへつて氣孔列に多いと見られる、この両者の間の關係は今後のいろいろの点において調査されない間は何とも云へないが、稻細胞の菌に対する反應の差と云うことで多少の解釋はつく様である。即

ち、菌の侵入は機動細胞に多いが、稻細胞の反應は氣孔列の細胞の方が速かであるが爲に、初發部位としては氣孔列が多い様に見られるものである。
(農林省北陸農業試験場)